

いじめ防止基本方針

いじめの中には児童の生命、身体又は財産に重大な被害が生じるような、直ちに警察に通報することが必要なものが含まれます。これらについては、『いじめ防止対策推進法』第23条により、直ちに警察に相談・通報の上、警察と連携して対応を取るようになります。

矢板市立安沢小学校

矢板市立安沢小学校いじめ防止基本方針

1 基本的な考え方

くいじめの定義> いじめ防止対策推進法第2条第1項より

「いじめ」とは、児童等に対して当該児童等が在籍する学校に在籍している等当該児童等と一定の人的関係にある他の児童等が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童等が心身の苦痛を感じているものをいう。

本校では、上記の定義を踏まえ、全ての教職員が、「いじめはどの子どもにも、どの学校においても起こり得る」という基本認識の下、児童の尊厳を守りながら、いじめのない学校づくりに向けて学校組織全体で取り組みます。

いじめ防止等の対策のための組織である「学校いじめ対策委員会」を組織し、保護者、地域、関係機関とも連携しながら、「いじめの起こらない学校づくり、いじめを許さない集団づくり」に向け、様々な教育活動を通じた未然防止対策を行うとともに、いじめが疑われる事態を把握した際には、早期の解決に向け組織的に対応します。

特に、重大事態が発生した場合には、矢板市教育委員会に報告し、関係諸機関と連携を図りながら、一体となって対処します。

本基本方針には、「安沢小学校いじめ防止基本方針実践のための行動計画」を設け、教職員は、その計画に基づいて基本方針の実践に努めていきます。

2 組織的な対応に向けて

- 「学校いじめ対策委員会」を組織し、未然防止に向けた対策を行うとともに、いじめが疑われる事態を把握した際には、早期の解決に向けて組織的に対応します。
- 学校の特定の教職員が情報を抱えず、学校が一丸となって組織的に対応します。
- 学校の教育活動全体を通じて、特別支援教育、道徳教育、人権教育の充実を図り、児童への指導を組織的に行います。

3 校内体制の構築 いじめ防止対策推進法第22条より

「学校いじめ対策委員会」が中心となり、いじめの未然防止、早期発見、事案対処等に学校全体で取り組みます。

く学校いじめ対策委員会>の構成員

校長・教頭・教務主任・児童指導主任・教育相談担当・養護教諭・当該児童の担任
(※学年主任 現時点で本校は単学級)・特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー

※状況に応じて関係諸機関との連携 → スクールソーシャルワーカー・弁護士・警察
学校医・民生児童委員 等

4 いじめの未然防止に向けて

- 児童の一人一人に対して、豊かな心を育み、道徳性を養うことを通して「いじめを許さない心」や「いじめを起こさない力」を育成し、いじめに発展するかもしれない日常のトラブルの解決が図れるよう、計画的な指導を実践します。
- 児童一人一人が、意欲をもって学校の様々な教育活動に取り組めるよう、「集団づくり」

や「授業づくり」への取組を充実させるなど、いじめのない学校づくりに向けた指導の充実を図ります。

- 教職員の言動が、児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長したりすることがないよう、教職員の人権感覚を磨くとともに、指導に細心の注意を払います。
- 集団の一員としての自覚や自信を育むことにより、ストレスにとらわれることなく、互いを認め合える人間関係・学校風土をつくります。
- インターネットのもつ利便性と危険性を理解させながら、情報機器の適切な使い方について指導します。

5 いじめの早期発見に向けて（アセスメント・状況把握）

- いじめは、大人が気づきにくく判断しにくい形で行われることを、教職員一人一人が強く認識します。ささいな兆候であっても、いじめではないかとの疑いをもって、早い段階から的確に関わりをもち、いじめの可能性を疑い、軽視することなく、いじめを積極的に認知します。
- 児童の声に耳を傾け、児童の行動を注視し、児童の変化を見逃さないようにします。
- いじめの疑いがあることを認識した場合には、決して特定の教職員が抱え込むことなく組織的に対応します。
- 定期的なアンケートや教育相談、個人懇談の実施等により、児童がいじめを訴えやすい体制を整え、いじめの実態把握に努めます。
- 日頃から児童との信頼関係を深め、児童がいじめを相談しやすい体制を整えます。
- 日頃から保護者との信頼関係を深め、保護者との情報共有に努めます。
- 児童、保護者、地域からのいじめに関する相談・通報窓口を周知することにより、相談しやすい体制を整えます。

6 いじめの早期解決に向けて

- いじめられている児童を徹底的に守り通します。
- いじめられている児童や保護者の立場になって対応します。
- いじめの疑いがあることを認識した場合には、その場でその行為を止めさせたことで安易に解決したと思ひ込むことなく、組織的・継続的に対応します。
- いじめている児童については、行為の善悪をしっかりと理解させるとともに、反省させ、二度といじめることのないよう、学校組織としてしっかりと指導します。
- 双方の保護者に対して、学校組織として説明責任を果たしつつ、学校と保護者が一致協力して、いじめの解決に向けて取り組めるようにします。
- いじめを見ていた児童については、自分の問題として捉えさせ、いじめは絶対に許されない行為であり、見逃さず根絶しようとする態度を育成します。
- 解決した後も、いじめられた児童、いじめた児童の双方を継続的に指導し、良好な人間関係の構築に努めます。

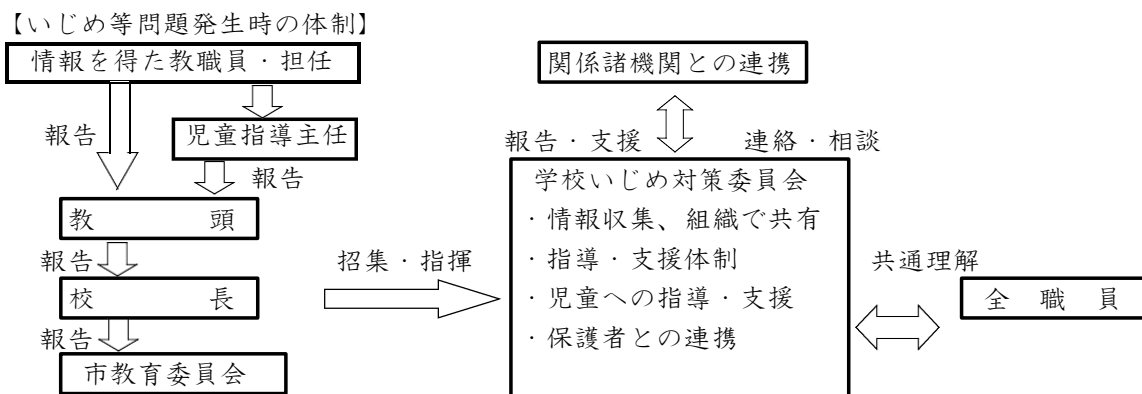
7 重大事態への対応 いじめ防止対策推進法第28条

＜重大事態の定義＞

- いじめにより児童の生命、心身又は財産に重大な被害が生じた疑いがあると認められたとき。
 - ・ 児童が自殺を企図した場合
 - ・ 心身に重大な被害を負った場合
 - ・ 金品等に重大な被害を被った場合
 - ・ いじめにより転学等を余儀なくされた場合
 - いじめにより児童が相当の期間学校を欠席する（年間30日を目安として、一定期間連続して欠席している場合も含む）ことを余儀なくされている疑いがあると認められたとき。

- 児童や保護者から「いじめにより重大事態に至った」という申し立てがあったとき。
申し立てがあったときは、その時点で学校が「いじめの結果ではない」あるいは「重大事態とはいえない」と考えたとしても、重大事態が発生したものとして報告・調査等にあたる。
- 重大事態は、事実関係が確定した段階で重大事態としての対応を開始するのではなく、「疑い」が生じた段階で調査を開始しなければならない。

- 重大事態の報告
重大事態が発生した場合は、その旨を速やかに市教育委員会に報告します。
- 重大事態の調査組織の設置
重大事態の調査を学校が主体となって実施する場合は、市教育委員会と連携を図り、「学校いじめ対策委員会」を速やかに設置します。
- 調査の実施
 - ＜学校を調査主体とした場合＞
 - 1 学校は、直ちに市教育委員会に報告する。
 - 2 学校は、市教育委員会の指導・支援の下、「学校いじめ対策委員会」を設置する。
 - 3 学校は、「学校いじめ対策委員会」で、事実関係を明確にするための調査を実施する。
 - 4 学校は、いじめを受けた児童及びその保護者に対して、情報を適切に提供する。
 - 5 学校は、調査結果を市教育委員会に報告する。
 - 6 学校は、調査結果を踏まえた必要な措置を行う。
 - ＜教育委員会が調査主体となる場合＞
学校は、市教育委員会の指示の下、資料の提出など、調査に協力する。
- 再発防止の措置
上記調査の結果を踏まえ、いじめの再発防止のため、教育委員会からの指導・助言等を受け、適切な措置を講じます。



8 研修

- いじめの未然防止、早期発見・早期対応、インターネットを通じて行われるいじめへの対応など、教職員のいじめに対する意識や対応力を高める研修を計画的に行います。
 - ・ 打合せ（毎週木曜日）：児童指導に関する情報交換会
 - ・ 職員会議：児童指導に関する情報交換会
 - ・ 現職教育：支援を要する児童についての児童理解
 - ・ 現職教育：情報モラル研修または人権教育研修

9 PDCAサイクル

実効性の高いいじめ防止等の取組を実施するため、点検をし、必要に応じて見直し、改善します。

安沢小学校いじめ防止基本方針実践のための行動計画

1 組織的な対応に向けて

(1) 学校いじめ対策委員会

① いじめ問題の未然防止・早期発見、事案対処等のための委員会を組織する。

ア 委員

校長・教頭・教務主任・児童指導主任・教育相談担当・養護教諭・当該児童の担任
(※学年主任 現時点で本校は単学級)・特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー

※状況に応じて関係諸機関との連携 → スクールソーシャルワーカー・弁護士・警察・学校医・民生児童委員 等

イ 実施する取組

＜未然防止対策＞

- ・ いじめの未然防止に向けての全体指導計画の立案
- ・ 全体指導計画の実施状況の把握と改善
- ・ 定期アンケート及び教育相談週間の実施
- ・ Q-U 調査の実施と結果分析
- ・ 校内研修の計画、実施
- ・ 支援を要する児童への支援策検討、実施

＜早期発見対策＞

- ・ 定期アンケート実施と結果分析
- ・ 情報交換による児童の状況把握と情報の共有

ウ 取組の改善

評価を行い、いじめ問題への取組が計画的に進んでいるかどうかを確認し、実効あるものに改善を図る。

② いじめが起きたとき、いじめが疑われる事案が発生したとき

ア 委員 学校いじめ対策委員会を中心に全職員で対応

イ 実施する取組

＜調査方針、分担等の決定＞

- ・ 目的の明確化
- ・ 優先順位の決定
- ・ 関係児童への事実関係の聴取
- ・ 緊急アンケートの実施
- ・ 保護者への連絡
- ・ 市教育委員会への報告
- ・ 関係諸機関への報告（必要に応じて 警察、ソーシャルワーカー、医療関係等）

＜指導方針の決定、指導体制の確立＞

- ・ 学年への指導支援
- ・ 被害者、加害者への指導支援
- ・ 学級への指導支援
- ・ 保護者との連携
- ・ 市教育委員会との連携
- ・ 関係諸機関との連携
- ・ 地域との連携（区長、民生児童委員等）

(2) 校内研修

- ・ いじめに関する校内研修を実施し、未然防止に向けた意識の向上、即時対応ができるようにする。

2 いじめの未然防止に向けて

(1) 計画的な指導

いじめ問題についての評価を実施し、速やかに評価結果に基づいた改善を図る。

(2) いじめが起こらない学校づくり

- ・ 道徳教育、特別活動、人権教育など様々な教育活動の指導計画の中に、いじめのない学校づくりに向けた指導を位置付けて、組織的・計画的な指導に努める。

ア 学業指導の充実

- ・ 「帰属意識の高い学級」「規範意識の高い学級」「互いに高め合える学級」を目指し、学びに向かう集団づくりに努める。
- ・ 「自信をもたせる授業」「コミュニケーション能力を育む授業」「一人一人の実態に配慮した授業」を目指し、一人一人が意欲的に取り組む授業づくりに努める。

イ 道徳教育の充実

- ・ 道徳教育を充実させることにより、豊かな心を育み、人間としての生き方を自覚を促し、児童の道徳性を育成する。
- ・ 「とちぎの子どもたちへの教え」を活用し、人としてしてはならないこと、すべきことを教え、人としてよりよく生きるための基盤となる道徳性を育成する。

ウ 特別活動の充実

- ・ 特別活動の特質である望ましい集団活動を通して、人間関係を築く力を育てる。
- ・ 生命や自然を大切にすることや他人を思いやる優しさ、社会性、規範意識などを育てるため、自然体験活動や宿泊体験学習など様々な体験活動の充実を図る。
- ・ 児童会活動において、校内でいじめ根絶を呼びかける運動や、児童同士で悩みを相談し合うなど、児童の主体的な活動を推進する。

エ 人権が守られた学校づくりの推進

- ・ 児童一人一人が、自他の人権の大切さを認め合うことができるよう、様々な場面を通してしっかり指導する。
- ・ 教職員の言動が児童を傷つけたり、他の児童によるいじめを助長することがないよう、教職員一人一人が人権感覚を磨くとともに、指導に細心の注意を払うようにする。
- ・ 人権に配慮した学級の雰囲気づくりを心がけるとともに、自分で人間関係の問題を解決できる力を育成する。

オ 保護者・地域との連携

- ・ PTA 教育講演会や学年 PTA 等において、保護者を対象とした啓発を実施し、人権感覚を高めていく機会とする。
- ・ 「学校いじめ防止基本方針」や「行動計画」を HP やたより等を通して保護者や地域に周知する。

(3) 指導上の留意点

- ・ いじめられる側にも問題があるという認識は絶対にないようにする。
- ・ 発達障害を含む障害のある児童生徒に対しては、障害を踏まえた児童理解に努め、適切に指導する。

(4) ネットいじめへの対応

- ・ 携帯電話、スマートフォン等は、校内への持ち込みや使用を禁止する。
- ・ 学級活動等を活用して、情報機器の適切な使用法や情報モラルについて指導する。
- ・ 家庭における情報機器の使用について、保護者と協力して適切に使用ができるよう啓発に努めるとともに、PTA として研修会を実施する。

3 いじめの早期発見に向けて

(1) 早期発見のための認識

- ・ 些細な徴候であっても、いじめではないかという疑いをもって、早い段階から複数の教員で的確に関わり、いじめを軽視したり、隠したりすることなく、いじめを積極的に認知する。
- ・ 児童生徒の見守りや信頼関係の構築に努め、児童が示す小さな変化や危険信号を見逃さないようにする。

(2) 早期発見のための手立て

- ・ 定期的に教育相談の時間を設けて、児童が気軽に相談できるような雰囲気づくりに努め、様々な悩みに適切に対応し、安心して学校生活が送れるよう配慮する。
- ・ 毎週木曜日に児童指導に関する情報交換会を開催し、気になる児童の情報を共有し、組織的な対応に努める。
- ・ SCとの連携を図り、情報を共有しながら即時対応に努める。
- ・ アンケートを実施し、定期的なチェックを行う。
- ・ 家庭との情報交換を密にし、保護者の悩みにも応えることができる教育相談体制を整える。

4 いじめの早期解決に向けて

(1) 早期解決のための認識

- ・ いじめられた児童や保護者に対し、徹底的に守り通すことや秘密を守ることを伝え、できる限り不安を取り除くとともに、安全を確保する。
- ・ いじめた児童に対しては、毅然とした態度で指導し「いじめは絶対に許されない」ということを理解させるとともに、自らの行為の責任を自覚させる。

(2) 早期解決のための対応

- ・ 関係のある児童への聴取や緊急アンケートの実施等により、事実関係を迅速かつ的確に調査する。状況によっては、外部機関とも連携する。

(3) 児童生徒、保護者への支援

- ・ いじめられている児童の保護者及びいじめている児童の保護者に対し、速やかに事実を報告し理解を求めるとともに、いじめの事案に係る情報を共有する。
- ・ 双方の保護者に対し、いじめの早期解決のための協力を依頼する。
- ・ いじめが解決したと思われる場合でも、継続して十分な注意を払い、必要な指導助言をする。
- ・ いじめを解決する方法については、いじめられた児童及び保護者の意向を踏まえ、十分話し合った上で決定する。
- ・ いじめた児童が抱える問題など、いじめの背景にも目を向けながら、当該児童が二度といじめを起こさないよう、継続的に指導援助する。
- ・ いじめた児童が十分に反省し行動を改めることができるよう、学校と保護者が協力して指導援助にあたる。

(4) いじめが起きた集団への働きかけ

- ・ いじめ問題について話し合わせるなど、児童に自分の問題として考えさせ、いじめは絶対に許されない行為であることを感じ取らせる。
- ・ からかったり茶化したりする行為は、いじめを助長するものとなること、いじめと同様の行為であることを指導する。
- ・ いじめがあることを、誰かに知らせる勇気をもつことが大切であることを指導する。

(5) ネットいじめへの対応

- ・ 児童の生命、財産に等しい重大な被害が生じる恐れがあるときには、直ちに警察署

に通報し、適切な対応を求める。

- ・ ネットいじめを発見した場合には、学校いじめ対策委員会で情報を共有するとともに、教育委員会と連携しながら当該いじめに関わる情報の削除等を求める。

(6) 警察との連携

- ・ いじめが犯罪行為として取り扱われるべきものであると認めるときには、警察署の生活安全課と連携して対処する。

(7) 継続的な指導援助

- ・ 単に謝罪で解決したこととせず、継続的に双方の児童の様子を観察しながら、組織的に指導援助する。
- ・ 双方の児童や周囲の児童が好ましい集団活動を取り戻し、新たな活動に踏み出せるような集団づくりを進める。

5 重大事態への対応

- (1) 市教育委員会に報告するとともに、関係諸機関と連携を図りながら対応していく。
- (2) 学校いじめ対策委員会を開催し、役割を明確にしながら調査、対応する。
- (3) いじめられた児童やその保護者、いじめた児童やその保護者に対し、調査によって明らかになった事実関係について、経過報告も含め、適時適切な説明をする。
- (4) 当該児童及び保護者の意向を十分に配慮した上で、保護者説明会において状況を説明するとともに、解決に向けて協力依頼する。
- (5) 学校いじめ対策委員会を中心に、速やかに再発防止策をまとめ、学校組織を挙げて着実に実践する。

年間指導計画

月	学校行事	児童指導・教育相談	各教科等	組織活動
4	始業式 入学式 1年生を迎える会 家庭訪問	児童指導全体計画の作成 児童一覧の作成 生活のめあての作成 よい子のきまりの周知 あいさつ運動（毎月） 前年度からの引き継ぎ 基本方針の確認 縦割り班活動（毎月）	【特活】 よりよい人間関係 の形成 心身ともに健康で 安全な生活態度の 形成	指導部会 ブロック会 学校いじめ対 策委員会 情報交換会 （毎週）
5	運動会	Q-Uの実施 支援を要する児童の共通理解	【道徳】 生命尊重 思いやり 情報モラル	指導部会 ブロック会 学校いじめ対 策委員会
6		アンケートの実施 教育相談週間	【理科】 生命	学校いじめ対 策委員会 ブロック会 学校評議員会
7	個人懇談 オープンスクール	夏休み前指導 Q-Uの分析（研修会）	【保健】 生命の誕生 心身の健康	学校いじめ対 策委員会 指導部会 学校評議員会
8		夏休み後指導		指導部会 ブロック会
9		※長期休業後の児童観察		学校いじめ対 策委員会 指導部会 ブロック会
10	終業式 始業式 修学旅行	Q-Uの実施 アンケートの実施		学校いじめ対 策委員会 ブロック会
11	オープンスクール	教育相談週間		学校いじめ対 策委員会 学校評議員会
12	個人懇談 人権週間	人権教育研修		指導部会 ブロック会
1		休業後の児童観察		学校いじめ対 策委員会 ブロック会
2	6年生を送る会	基本方針の見直し 卒業・進級に向けての引き継 ぎ		学校いじめ対 策委員会 学校評議員会 指導部会
3	卒業式 修了式	今年度のまとめ		学校いじめ対 策委員会 ブロック会

※ ケース会議を必要に応じて実施